

## 熊本地震から一年

あれから一年が過ぎました。各地で寸断された道路は段階的に復旧され、倒壊した家屋やビルの解体も進み、屋根を覆うブルーシートの数も少なくなってきました。しかしながら、熊本地震の残した爪痕は、熊本の大地にも、私たちの心の中にも、今もなお深く刻み込まれています。

個人的には、県知事選挙の敗北を受け入れ、気持ちを整理し、新たな一歩を踏み出そうとした矢先の大震災に、足が止まってしまいました。震災対応に直接携われないことにもど



## 震災後の熊本を歩き、 確かに手にした 立ち上がる力、 政治家としての使命

幸山政史

かしさを感じつつ、今の自分にできることを探し、被災地を訪れて現実を直視しました。また、全国から集まってくれた皆さまとボランティアで汗を流し、仮設住宅を訪れて共に被災者の生活再建を考えました。

各地を回り、多くの人と話をし、今回の震災で浮き彫りになった課題は、震災前の課題でもあったことを確信することになりました。

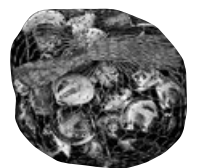
課題の先にある熊本の未来  
少子高齢化、人口減少が進む中山間地域の農地を誰が復旧し、誰

が守るのか、西原村や南阿蘇村の小規模自治体を襲う大規模災害の対応をどこが支えるのか、都市化が進みコミュニティが希薄になった地域の共助の仕組みをどうやって構築するのか、広がりつつある地域間格差を食い止めるためにはどうしたらいいのか、先の県知事選挙で課題として訴えてきたことが、震災を経た今、あらためて問われています。

震災を乗り越えて熊本の未来を確かなものにする、いわゆる「創造的復興」を果たすことは大切ですが、いずれも簡単なことではあ



4月29日『緑川の日』に開催された復興イベントに参加。『天明水の会』の一員として、アサリ汁作りに汗を流した。有明海とその流域の再生に取り組む同会に参加して20年、大きく成長したアサリを味わってもらえる機会となった。



採れたてのハマグリやアサリも販売され、有明海の特産であることをPR。

りません。政治家として私がこれまで歩いてきた道は、先の県知事選挙で、そして熊本地震で、途絶えてしまったかのように感じたときもありましたが、震災後の熊本を歩き、決してそうではないと思いつきました。困難な道程ではあるのですが、現実を見つめるとともに、熊本の未来をも見据えながら、これからも歩み続けていきたいと思えます。

皆さまにおかれましては、今後とも変わることなくご指導を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

幸山政史が行く!! #7 視察編

# 課題への提言

熊本地震以降、幸山政史は被災地へと足を運び、地域の方々と共に復興に取り組む一方で、さまざまな課題を乗り越えた実績を持つ、県内外の方々と語り、解決への糸口を探しています。今回は、その中から5つの課題を取り上げご紹介します。



(右)『このとりのゆりかご』開設10年の節目に慈恵病院にて講演。「許可の責任は、ずっと負い続けていきます」と、その思いを語った。

(上)『子どもの村福岡』には、交流施設としての『センターハウス』(左の建物)と5棟の『家族の家』があり、さまざまな事情により家族と離れて暮らさざるを得ない子どもたちと“育親”が、一緒に暮らしている。



福岡市  
児童福祉

子どもの貧困、格差拡大をストップ！  
幸せに育つ子どもたちの権利を守る



2010年に開村以来、多くの専門家や支援者、地域の方々が支えている。写真はご案内くださった村長の大場美徳(よしのり)さん。

『このとりのゆりかご』設置から10年を契機に、NPO法人が運営する『子どもの村福岡』(福岡市西区今津)と福岡市児童相談所を訪れました。

福岡市ではこのような民間施設と連携した里親制度推進により、この10年で里親委託率が25.5%<sup>(\*)</sup>も増加し、32.4%となっています。民間主導で里親研修なども積極的に行われ、『子どもの村福岡』が拠点となって里親のアフターサポートも万全です。官民連携の下、手厚い養育支援に取り組む福岡市の姿に多くのことを学ばせていただきました。

『ゆりかご』の10年を振り返ってみると、「出自を知る権利」と「匿名性」といった『ゆりかご』自体の課題と、伸び悩む熊本県の里親委託

率10.24%<sup>(\*)</sup>が物語るように、『ゆりかご』後の社会的養護に関する課題を抱えたままの10年と言わざるを得ません。また最近では『子どもの貧困』や『経済格差』などが浮き彫りになり、より深刻化していく社会背景の中で、『ゆりかご』の原点を見つめなおして再スタートを切る必要があると思います。

国がガイドラインを示して動き出し、熊本でも里親推進の一環として『里親マッチング』なども行われています。全国の中でも児童養護施設数が多く、水準も高い熊本だからこそ、よりよい環境を目指しアクションを起こすことが大切です。そのためにも、方針を明確に打ち出し、官民連携で多くの人々を巻き込んでいくことが求められます。

## Kohyama's Eyes®

### 課題▲

『このとりのゆりかご』は、設置当時から、法的に不安定な状況のままに運営されている。子どもたちがより幸せに育つことができる環境の提供が急がれる。

### 提言♡

①『このとりのゆりかご』を今後、どう前進させるのか ②子どもたちが家庭に近い環境で生育できる仕組みづくり ③里親制度の充実について明確な指針を打ち出し、一般の人々を巻き込んで広く協力を呼び掛けていく。





網袋の中には10ミリ以上のアサリがびっしりと詰まっており、その外にもたくさんのアサリの生息を確認することができた。



## 宇土市 水産業

### 水産業の再興の鍵 有明海干潟再生

## Kohyama's Eyes®

### 課題▲

有明海全体の水質汚染および川から海へ流れ込む砂が減り、干潟のヘドロ化が進んでいる。

### 提言▽

網田漁協の取り組みは成功事例。沿岸域の漁協も積極的に取り入れ、干潟再生に取り組んでいく必要がある。

かつて熊本が全国に誇った天然のハマグリやアサリの漁獲量が激減する中で、網田漁協(宇土市)では福岡大学と連携し、新たな技術を用いた干潟再生に取り組んでいます。『フルボ酸鉄シリカ』という浄化作用を持つ資材を干潟に投入し、ヘドロ化を改善すること5年。今では、アサリの漁獲量も増え、稚貝が育つ干潟へと再生しています。



棚田やあぜ道の復旧作業に汗を流した。震災を受けて農業をやめる人も続出し、地域の存続が危ぶまれる事態になっているという。



## 山都町 農業

### 高齢化と人材不足が 復興の厚い壁に

## Kohyama's Eyes®

### 課題▲

高齢化が進み、農業の担い手不足という現状が、復旧作業の遅延や耕作の放棄などの悪循環を招いている。

### 提言▽

地域外の人々を巻き込んで、支援を広く呼び掛けることはもちろん、今後長く続けていけるような仕組みづくりが最も重要。

山都町の白糸地区で「棚田再生ボランティア」に参加しました。熊本地震の影響で農地はひび割れており、あぜ道の段差、水路の破壊などの復旧が急がれますが、高齢化が進んでおり、若手の人材不足で作業が進んでいません。震災前から抱えていた課題が浮き彫りになった形で、長期的に地域をどのように再生していくかが、今後の大きな課題です。



フォーラムでは、熊本地震の発生直後や避難所運営、その後の仮設住宅での生活などを通じたコミュニティの重要性について述べた。

## 平戸市 地域活性化

### コミュニティの 創生と 維持が課題

## Kohyama's Eyes®

### 課題▲

熊本県内でも度島同様の課題を抱える地域だけでなく、コミュニティ再生と維持は大きな課題。

### 提言▽

基礎自治体の規模によって異なるニーズや課題を現地でヒアリングし、共通の課題を見出して、地域活性化の仕組みづくりが必要。

「なぜ、今コミュニティなのか？」をテーマに平戸市で開催されたフォーラムに出席しました。同市の離島の一つである度島<sup>たくしま</sup>では、高齢化と人口減少が進む中、先進のまちづくりが進んでいます。地域が主体となったコミュニティバスの運営やAEDの設置、防災活動など、度島の活動は、他の地区へと広がっています。



大学が被災地に拠点を設けた活動は、大変珍しい。復興までの長い道のりでは、大学が担う役割が重要になっていくだろうと感じた。

## 益城町 復興支援

### 産官学連携で 被災者を支援

## Kohyama's Eyes®

### 課題▲

産官学連携は長く進められてきたが、大規模災害などの中で大学がどのような役割を果たしていくか、熊本地震を通して新たな課題も。

### 提言▽

熊本地震では、各大学の特性を生かし、それぞれが地域に貢献し、復興を支えていた。今後より一層の産官学連携の強化が望まれる。

益城町に設置された『熊本大学まじきラボ』は、同大の復興支援プロジェクトの一つ。被災者が住宅再建や集落の再生などを相談できる窓口として活用されているほか、仮設住宅や被災地の実態調査などを行い、研究を進めてきました。大学の専門性を生かした継続的な支援が今後の復興計画に役立つよう、教員や学生の皆さんが取り組んでおられます。

# KOHYAMA'S

## INFORMATION

### 「幸山政史 新春の集い」を開催しました!

2月27日(月)、熊本県内全域の方々を対象にした「幸山政史 新春の集い、(ホテルニューオータニ熊本)」を開催。当初予定していた人数を大きく上回る皆さまにご参加いただき、盛況のうちに終わることができました。

幸山の近況報告を兼ねたご挨拶を皮切りに、「震災を乗り越えて ～ともに語る 歩く熊本の今と夢～」をテーマに、多くの方々との現状と課題、将来像等について語り合うことができました。皆さま、ご参加ありがとうございました。



持ち時間を超えるほど熱が入った幸山の挨拶に熱心に耳を傾けていただき、ご参加の皆さまと熊本のこれから、そして将来について共に考えるひとときとなりました。



#### 支援者の声

幸山政史を温かく、力強く  
応援して下さる方々の思いを  
ご紹介いたします。

#### 「 県民の小さな声を聞き、 よりよい熊本づくりを 」

Q 坂口 新一郎さん(阿蘇郡産山村)

現在、阿蘇は国道57号の復旧が大きな課題です。例えば、阿蘇へ高速道路を造れば、農業や流通、観光の流れも変わる。そんな新たな発想に目を向け、県民の小さな声を聞き、皆の手足となって、よりよい熊本をつくってほしいですね。

#### 「 男気とぶれない信念、 真摯な姿勢が魅力 」

Q 菰田 貴美子さん(荒尾市)

3期で熊本市長を潔く退いた幸山さんの男気に「熊本を託したい」と思いました。出会った一人一人のことを覚えていてくれる真摯な姿勢やパフォーマンスをしない人柄、それが幸山さんの魅力です。さらに大きなステージへ、応援していきます。

#### 「 一人一人に向き合う 姿勢こそ真のリーダー 」

Q 宮本 春志・典子ご夫妻(天草市)

初めてお会いした時に、真正面から話を聞いて、真っすぐに目を見ながらわかりやすく、理路整然と自分の考えを話してくれました。その人間性に触れ、幸山さんのような人こそ、リーダーになってほしいと応援しています。がんばってください!

#### 「 水戸黄門のように歩き、 熊本を政治改革 」

Q 津崎 光任さん(球磨郡あさぎり町)

多良木高校廃校時に、私たちの声に真剣に向き合ってくれた幸山さんに県政を預けたいと、『人吉球磨幸政会』を結成しました。地域に一度も足を運ばない政治家がいる中で、「各地域を回ります」という幸山さんの言葉を信じ、応援します!

#### 「 フットワークが軽い 公平公正なリーダーに 」

Q 諏訪免 力さん(熊本市)

幸山さんとはソフトボールや『明日の介護を考える会』の仲間です。私たちと同じ目線で肩を並べて語らう、その人柄が好きで応援しています。スポーツマンらしいフェアな精神で熊本をけん引するリーダーになってもらいたいですね。

お申し込み・お問い合わせはこちらまで

## 幸山政史事務所

〒861-5535 熊本市北区貢町378-1

電話

096-245-3525

FAX

096-245-3542

Eメール

jimusho@kohyama-office.com

ホームページ

http://www.kohyama-office.com